

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	普通の当たり前の家という言葉に普通の当たり前の生活を意識している。 笑顔、心、尊厳、感謝、地域	理念については事務所内に掲示し共有に努めている。また、申し送り時や月1回の職員会議で理念に沿った支援について話し合っている。職員同士「ありがとう」と言える関係作り心掛け、互いをカバーし合い笑顔の絶えない職場作りに取り組んでいる。家族に対しては年1回の敬老会の席上理念に沿った支援について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の重度化で、近隣地域の行事には参加できないが、お買物、散歩など地域との接点は持っている。	自治会費を納め地域の一員として活動している。運営推進会議のメンバーにはホームの行事に積極的に参加をしていただき行事内容についての提案も頂いている。代表者が地域の集まりの中で依頼を受け認知症について話をしている。今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、地域の子供達との交流やボランティアの受け入れも出来ない状況であるが収束後には積極的に行う予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度のふれあい祭りを通し、地域の方々と触れ合う機会を設けている。ふれあい祭りの準備から、地域の方々と打ち合わせを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かされている。	家族代表、区長、民生委員、消防団員、市介護福祉課職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。状況報告、活動報告、意見交換等を行い、サービスの向上に繋げている。現在は新型コロナの影響を受け、思うような会議の開催が出来ていない。	新型コロナ禍という状況であるが、書面での会議を開催し、メンバーから意見などを頂ける関係性の継続を図ることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろからは取組めていない。	市介護福祉課には事故報告等で連携を取っている。市の介護相談員が月1回2名来訪し利用者との交流の時を持っていたが、現在は新型コロナの影響で中止の状態が続いている。今後、収束後には再開する予定である。介護認定更新調査は調査員が来訪し職員が対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は、施錠は行っていない。また、身体拘束は行っていない。	基本的には拘束をしないケアに取り組んでいる。所在確認をきめ細かく行い安全の確保を心掛けている。外出傾向の強い利用者が数名いるが本人の気持ちを大切に行動に制約は掛けずスタッフが寄り添い外を散歩するなどの対応をとっている。玄関は日中開錠されている。転倒危惧のある方が三分の一ほどおり、家族と相談し人感センサーを使用している。また、安全確保のため、状況に応じ布団を敷いたり低床ベットなどを使用することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や、所内の会議等で話し合いを持っていく。特に言葉遣いについては、指導はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強はできていない。現在必要な方がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の声や、意見箱を用意している。要望のあった事例は、会議で話し合っている。年に一度アンケートを行っている。	半数位の利用者が意思表示の難しい状況であるが、介護計画を参考に一日の状況を纏めた個人記録を振り返り、思いを受け止めるようにしている。家族の面会は新型コロナの影響を受け自粛状態が続いているが、必要な物の補充や誕生日のプレゼントを持参された時に状況を話したり、請求書送付に合わせ1ヶ月分の様子を写真に纏めコメントを添え家族にお届けしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	所内の会議に、職員の意見を交換する時間を設けている。	月1回職員会議を行い、利用者一人ひとりの状況について、業務マニュアルの変更新、意見交換等を行い、支援の向上に繋げている。人事考課制度があり評価表を用い年2回自己評価を行い、管理者による個人面談も行われ、代表者の最終評価に繋げている。また、職員の資格取得にも力を入れており、研修費用は全額会社が負担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。処遇改善加算等で、分配される仕組みを作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価表を使い、年に2度評価面談を行っている。外部の教育機関と連携をとり、研修を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入前に、家に訪問させていただいたり、デイサービスから始めていただいたりし、本人と馴染みの関係をはかっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	2時間以上をかけて、ご家族と話し合いを持ち、書類でも記入して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を把握し、なるべく今までの生活で行ってきた事をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一ヶ月に一回は面会に来て頂けるようお願いをし、近況の変化をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夢活動の一環で、ご本人の言葉やご家族の言葉から、馴染みの場所、人への訪問を行う行事をしている。	ホームが力を入れ取り組んでいる「夢活動」の中で「行きたい所」「やりたい事」などの利用者の意向を受け止め、希望に沿えるよう取り組んでいる。そのような中、お孫さんの高校野球観戦に出掛けたり、善光寺の見学ツアーを計画しドライブを兼ね外出を楽しんでいる。現在は新型コロナの影響を受け中断中であるが収束後には再開予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員とは言えないが、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、入所の場合は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画で話し合いをし、行っている。介護計画は、3か月に一度見直しを行い、効果測定を行っている。	介護度の軽い利用者については好みの飲み物選びや入浴後の洋服選び等は自ら選んでいただいている。介護度の重い方は二者択一の提案等も含め、表情などから意向に沿えるよう取り組んでいる。日々の気づいた言動等は個人記録として纏め、職員間で共有し支援に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントにより、得た情報をもとに行っている。わからない点は、面会時に御家族より情報を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画に基づき一日の生活のサポートをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族とは話し合いが出来ないため、面会時に現状をお話をしながら、要望等を伺っている。	職員は1~2名の利用者を担当し、居室管理、介護計画の作成などを行っている。3ヶ月に1回、ユニット会議の席上担当者が立てた計画に対し意見を出し合いケアマネジャーが最終チェックを行いプラン作成を行っている。家族にはモニタリング時に状況を確認していただき、要望もお聞きし介護計画の中に反映させている。短期、長期それぞれ3ヶ月で見直しがされ、利用者一人ひとりに合った介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日報に記入し、朝礼、終礼で申し送りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族やご本人のニーズにこたえられるよう、外出行事や外泊等のお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	重度化の方がいるため、外出して地域とかわかることはできないが、小学生とのふれあいや、行事で地域との触れ合いを取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医であるとよき内科と連携をとり、重症にならないように努めている。	医療機関については入居時に希望をお聞きしている。現在は若干名の利用者が入居前からのかかりつけ医利用で、家族付き添いでの受診となっている。他の大半の利用者はホーム協力医の月1回の往診で対応している。また、週1~2回、法人の非常勤看護師が来訪し健康管理に合わせ医師との連携を図っている。歯科については訪問歯科の定期的な診療で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他施設の看護師が、週一回訪問し状態の把握を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院入院時には、すぐにケースワーカーに情報を伝え、早期に治療がおこなわれる話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期を迎えた場合、御家族と話し合い、ターミナル契約書を締結しその方らしい生活を実践している。	重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明している。食事等が摂れない状況が生じたときには家族、医師、ホームで話し合いの場を持ち、家族の意向も確認の上ターミナル同意書にサインを頂き、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。1年以内に3名の看取りを行い、新型コロナ禍の状況であったが2週間位前から家族が毎日来訪し最期の時間を共に過ごしており感謝の言葉を頂いている。また、入職間もない職員に対してはベテラン職員が看取り支援についての心理的なケアに当たっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行っている。全体会議で、蘇生法などの講義を消防署から受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一回、夏祭りの際に避難訓練も行い、地域の自衛防災の方も出席して頂いている。	今年度は新型コロナの影響を受けホーム内部のみで防災訓練を行った。利用者全員玄関まで移動しての火災想定避難訓練を行い、合わせて避難経路の確認を徹底している。また、3ヶ月に1回防災会社による防災機器の点検が行われ緊急への備えとしている。更に、スマートフォンを用い職員と消防署への緊急連絡網の確認も行っている。備蓄として「乾パン」「水」「非常用食料」が2日分準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者ではなく、お客様という視点に立ち、言葉遣いにはお互いに気を配りサービスを行っている。	言葉遣いには気配りをし、人生の先輩である利用者に対し尊敬の念を込め基本的には「敬語」で接するよう心掛け、声の掛け方の統一を図っている。職員同士カバーし合える仲間として自分がされて嫌なことはしないよう心掛けている。また、呼掛けは苗字か名前を「さん」付けで呼び、希望に沿い「ちゃん」付けで呼び呼ぶこともある。入室の際には「失礼します」との声掛けを忘れずにプライバシーの確保に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、発している言葉表情を日報で申し送り、介護計画等に取り入れサービスを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた一日を送って頂けるサービスを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時にご本人に選択していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方は限られてしまうが、出来る方には行っていただいている。	殆どの利用者は自力で食事を摂れる状況である。献立は配食会社の管理栄養士が立てたメニューに従い、作り方レシピと共に3食分の副菜が配達され、それに沿い職員が調理し提供し、ご飯と汁物はホーム内で調理されている。また、ホーム内の行事の際には「お寿司」や「オードブル」をテイクアウトし、おやつの中には「おはぎ」や「おやき」等を共に作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、栄養士の立てたメニューを提供している。水分量は一人一人記録をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		

あつといーズホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便の表を作成しその方のパターンを把握して、オムツ等に頼らない支援を行っている。	三分の一の方が自立で、三分の二の方が一部介助という状況である。職員は24時間シートを用い一人ひとりの排泄状況を把握し、状況により2時間おき位に声掛けを行いトイレでの排泄に繋げている。お茶、汁物、コーヒー、水等の水分摂取1日1,000cc以上に取り組みスムーズな排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事だけでなく、週に一度の理学療法士によるリハビリ体操なども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望を取り入れることまでできておらず、現在は午前中中心になっている。	見守りを受け自立されている方が若干名で、多くの方が一部介助となっている。基本的に週2回入浴を行い、希望により3回入浴される方もいる。入浴拒否の方も数名いるが、無理強いせずに声掛けをし、日を変えたり、職員を変え入浴していただくようにしている。季節により「ゆず湯」「菖蒲湯」等のお風呂も楽しんでいる。また、近くに温泉があり足湯もあるので新型コロナ収束後には出掛ける計画をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体調を把握して、無理のないよう休息をとって頂いている。不眠の方には、主治医に相談の上眠剤等を処方していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	係が中心となり、薬の変更があった際は周知できるように報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物たたみ等その方に合ったこと役割を実践していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人一人の希望を出来る限り提供している。そのほかに、季節の行事(月に一回)外出行事を行っている。	外出時、手引き歩行と歩行器使用の方が半数、車いす使用の方が半数という状況である。天気の良い日にはスタッフが付き添いホームの周りを散歩したりホーム内の桜を見て楽しんでいる。新型コロナ禍で外出が難しい状況が続いているが、少人数に分かれドライブに出掛けたりもしている。来年度は年間行事計画に従い春のデザートツアーから秋の紅葉狩りツアーまで、新型コロナの状況を見ながら食事も兼ねた外出を行う予定である。	

あつといーズホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難や紛失の問題があり、現在は一部の方以外行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく、居心地の良い環境を整えている。季節により装飾を行っている。	敷地内東側の庭先には家庭菜園が設けられている。玄関を入ると写真入りで全職員が紹介されている。また、別に当日のリーダー職員が各ユニット1名ずつ写真で紹介され、来訪者に優しい対応を取っている。合わせて利用者の絵画作品などが飾られている。共用スペースには季節の飾り付けが施され日ごろの活動の様子を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ワンフローとなっている為、一人になれる空間は設けられていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の意向により、居室の装飾持ち込む家具は自由にして頂いている。	エアコンと床暖房が備え付けられた居室は掃除が行き届き綺麗な中で日々の生活を送っている。利用者の希望により「ふとん」使用の居室もある。持ち込みは家族と相談し、使い慣れたタンス、イス、テレビ等が持ち込まれ、中にはコタツが作られている居室もあり、自由に日々の生活を送っていることが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護計画、マニュアルを使用し、自立支援のサポートを行っている。		